プレゼンテーションソリューションを提供する

iP Viewer

ソフトウェア

取扱説明書

日本アビオニクス株式会社

本書はiP Viewerソフトウェアを使用し、プレゼンテーションを行う上での機能、操作方法について記載しています。プロジェクタとパソコンとの接続、プロジェクタの操作はプロジェクタの取扱説明書をご覧ください。

商標について

・MS、Microsoft、PowerPoint、Windows、Windows2000、Windows XP は米国Microsoft社の米国およびその他の国における商標および登録商標です。
・AdobeロゴおよびAcrobatはAdobe Systems Incorporated（アドビシステム社）の商標です。
・その他、本書に記載されている会社名、商品名は各社の商標および登録商標です。

免責事項について

・火災や地震、第三者による事故、お客様の故意または過失、誤用その他、異常な条件下での使用により生じた損害につきましては、当社ではいかなる責任も負いかねますので予めご了承ください。
・本製品の使用や使用不能から生ずる付随的な損害（事業利益の損失、データの変化や消失）につきましては、当社はいかなる責任も負いかねます。
・他の接続機器または当社以外のソフトウェアを含む製品との組み合わせによる誤動作などから生じた損害につきましては、当社はいかなる責任も負いかねます。
・各取扱説明書で説明している以外の使用方法により生じた損害につきましては、当社はいかなる責任も負いかねます。

■目　次

はじめに

iP Viewerはインテリジェントプロジェクタ iPシリーズ専用のプレゼンテーション支援ソフトウェアです。

会議中（プロジェクタで投写中）の資料に手書きで線や文字を書き加える、白画像を使ってホワイトボードとして使う、パソコン画面をキャプチャして登録する、プロジェクタ搭載の書画カメラの投写画像を登録することなどができ、さらに会議終了時には使用した投写資料を一括保存することができます（議事録機能）。
また、議事録データを再使用することにより効率・効果的な会議進行が行えます。

iP ViewerのソフトウェアはUSBケーブルを使ってプロジェクタとパソコンとを接続すると、プロジェクタ内に格納されているプログラムをパソコンが自動で検出して起動し、ソフトウェアを使うための必要な設定を自動で行ってくれるプラグアンドプレイ方式を採用しています。このため、ソフトウエアのインストールなど面倒な設定をしなくても、接続したパソコンはいつでもすぐ使用することができます。
（初めてプロジェクタとパソコンを接続する場合はUSBドライバのインストールが必要です。）
本書にて“iP Viewer”と言う場合は、プロジェクタに内蔵されているソフトウェアを示します。

iP Viewer使用上のご注意

- iP Viewerと他のソフトウェアを同時に使用しないでください。競合などが起こり誤動作する場合があります。
- iP Viewerのリムーバルディスク*内のファイルを移動したり削除しないでください。プログラムが起動しなくなります。
- パソコンに関する注意事項はご使用のパソコンの取扱説明書およびヘルプをご覧ください。

  *パソコンからはプロジェクタ内蔵メモリをUSB大容量リムーバブルデバイスとして認識します。

- USBケーブルの取り外しは、プロジェクタ内蔵メモリを破損することがありますので、必ず本取扱説明書の記載事項（9ページ）を守って行ってください。

お知らせ　リムーバブルデバイスとは取り外しができる記憶装置のことで、ドライバはこの装置を動かす（読み書きする）ソフトウェアです。

■ プレゼンテーションの手順

プロジェクタとパソコンを単独で接続してiP Viewerを使用する場合の手順を説明しています。
システムとして使用している場合は管理者にお尋ねください。

1 パソコンでプレゼンテーション資料を作成する→13ページ

2 プロジェクタとパソコンとをRGBケーブルで接続する（画像投写用）
→本体の取扱説明書

3 プロジェクタの電源を入れ、入力切り替えを［PC］にする→本体の取扱説明書

4 パソコンを起動する

5 プロジェクタとパソコンをUSBケーブルで接続する（USBリムーバブルデバイス用）
接続方法は本体の取扱説明書をご覧ください。

6 初めてプロジェクタと接続する場合のみ→6ページ
USBデバイスドライバのインストール（自動）を行います。
議事録をPDFファイルとして保存したい方のみ、“VS-View”のインストールが必要です。

7 プレゼンテーションを開始する→14ページ

8 プレゼンテーションを終了する→20ページ
（iP Viewerソフトウェアを終了する）

9 パソコンとUSBとの切断操作をする→9ページ

10 プロジェクタとパソコンの電源を切る

11 USBケーブル、RGBケーブルを外す

1. USBドライバとVS-Viewのインストール

《1-1.パソコンの動作条件》

iP Viewerソフトウェアを正常に動作させるには下記の項目を満たす必要があります。

対応OS	Windows 2000 Professional (SP3)以上、Windows XP ご注意 Windows 2000(SP2)以前のOSはiP Viewerの動作保証範囲外になります。
CPU	Celeron 800MHz 以上
メモリ	256 MB 以上
空きHD容量	500MB以上推奨（テンポラリフォルダのドライブ容量）
表示解像度	XGA（1024×768）以上 ご注意 これ以下の解像度の場合iP Viewerのポインタなどが正しく表示されません。解像度の変更はパソコンのヘルプをご覧ください。
USBポート	USB 1.1　または　USB 2.0

《1-2.USBデバイスドライバの自動インストール》

プロジェクタを"USB大容量リムーバブルデバイス"としてパソコンに認識させるドライバ（USBデバイスドライバ）を自動でインストールします。

1 **プレゼンテーションの手順（5ページ参照）をご覧になり2～5の操作を行ってください。**

自動的にインストールを開始します。

2 **インストールが終了するとパソコンの再起動を要求する画面を表示しますので、[再起動] ボタンをクリックします。**
続いて「iP Viewer を起動しますか」の画面を表示しますので [キャンセル] ボタンをクリックします。

これで、USBデバイスドライバのインストールが終了しました。

お知らせ ● USBデバイスドライバのインストールは、プロジェクタと初めて接続したときに行なわれます。次回からは行なわれません。

《1-3.VS-Viewのインストール》

VS-Viewは議事録（21ページ参照）をPDFファイルとしても保存したい場合に必要です。
必要な方のみインストールを行ってください。
※VS-ViewはComponentOneの登録商標です。

お知らせ ●この操作は管理者権限のあるユーザーにて実施してください。

ご注意
- VS-Viewがインストールされていない場合、議事録をPDF保存時にエラーが発生します。
- iP Viewerのリムーバルディスク内のファイルを移動したり削除しないでください。プログラムが起動しなくなります。

確認　**パソコンとプロジェクタが接続され、電源が入っていることを確認ください。**
上記のUSBデバイスドライバのインストールが完了していることを確認してください。

1 **パソコンの“マイコンピュータ”内のiP Viewerの“リムーバブルディスク”（XPの場合はREMOVABLE）をクリックしてリムーバブルディスクを開きます。**



2 **［iP Viewer］フォルダ→［pdfsetup］フォルダ内にある“pdfsetup.bat”ファイルをブルクリックします。**
インストールが開始します。
以上でインストールが完了しました。

2. iP Viewerソフトウェアの起動と終了

《2-1.ソフトウェアの起動》

1 **パソコンとプロジェクタをRGBケーブルで接続する。**

2 **パソコンとプロジェクタの電源を入れる。**

3 **プロジェクタとパソコンをUSBケーブルで接続する。**
自動的にiP Viewerの起動確認画面を表示します。
一度終了した後、再び起動する場合はデスクトップ上の“iP Viewer”アイコンをダブルクリックしてください。

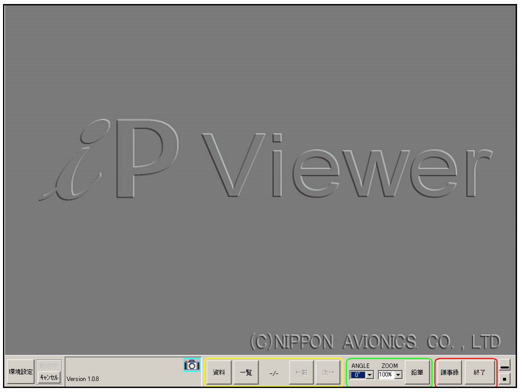
自動起動しない場合

- パソコンのCD-ROMの自動起動設定が「無効」に設定されていると自動で起動しません。「有効」に設定してください（設定はパソコンのヘルプをご覧ください）。
- エクスプローラをなどを使ってiP ViewerのCD-ROMドライブのボリューム名“UD-ROM”ドライブ内の“BootAP.exe”をダブルクリックして起動させてください。
- 一度起動した後に、ハードディスクやCD-ROM・リムーバブルディスク・コンパクトフラッシュなどのドライブやメディアを追加または削除した場合には、iP Viewer起動ドライブの順番が変わってしまい、デスクトップ上の“iP Viewer”アイコンから起動しない場合があります。
この場合は、プロジェクタとパソコンをつなぐUSBケーブルの抜き差しを行ってください。

4 ［OK］ボタンをクリックする。

iP Viewerが起動します。



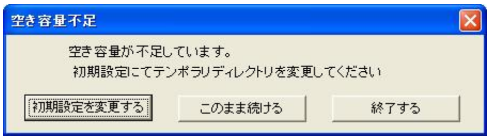


iP Viewer画面の名称と主な働きは、→11ページ参照
プレゼンテーションを行うには、→14ページ参照

●ディスクの空き容量不足の警告メッセージを表示した場合

ソフトウェア起動時に、ハードディスクの空き容量をチェックします。
ハードディスク（テンポラリフォルダ*のあるディスク）に十分な空き容量（500MB以上）がない場合は確認メッセージを表示します。

* テンポラリフォルダ：ソフトウェアが作業中に使用する一時ファイルの保管場所で初期設定はCドライブに設定されています。

意味と対処法	メッセージ画面
［環境設定を変更する］をクリックする “環境設定”画面を表示します。テンポラリフォルダを指定しなおしてください。10ページ「2-3. iP Viewerの環境設定と取扱説明書を見るには」 **［このまま続ける］をクリックする** ソフトウェアを使用することはできますが、多くの資料を登録した場合、容量不足で操作できなくなる場合があります。 空き容量が約100MB未満になるとこのボタンは無効になります。 **［終了する］をクリックする** ソフトウェアを終了します。	
ディスク容量が少なくなるか、ディスクに障害が発生すると警告表示がでます。 ［OK］ボタンをクリックするとソフトウェアが終了します。 議事録または登録データは保存できません。	

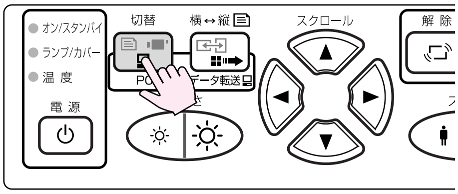
《2-2.ソフトウェアの終了とUSBデバイスとの切断》

プロジェクタおよびパソコンの電源を切る場合は次の操作をお守りください。

ご注意

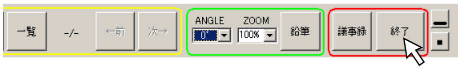
プロジェクタの内蔵メモリ（iP Viewer格納用）をUSB大容量記憶装置デバイスとして使用しますので、他の記憶装置デバイスと同様に注意して取り扱ってください。
次のようなことは行わないでください。プロジェクタ内蔵メモリが破壊されたり、ソフトウエアが起動しなくなる場合があります。
・4のハードウェアの取り外し操作を行わないでUSBケーブルを外す
・4のハードウェアの取り外し操作を行わないでプロジェクタの電源を切る
・プロジェクタの内蔵メモリに書き込みを行う

1 **プロジェクタの［切替］ボタンを押して“OHP”を選択する。**



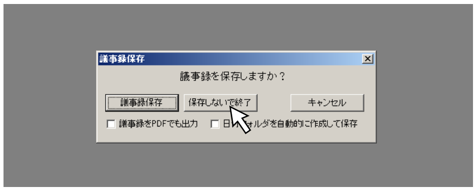
2 **iP Viewer画面右下の［終了］ボタンをクリックします。**

議事録保存画面を表示します。



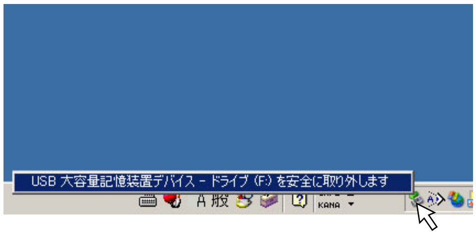
3 **目的のボタンをクリックしてソフトウェアを終了します。**

選択内容と保存方法は20ページ「プレゼンテーションの終了」をご覧ください。
ここでは［保存しないで終了］ボタンをクリックして終了します。



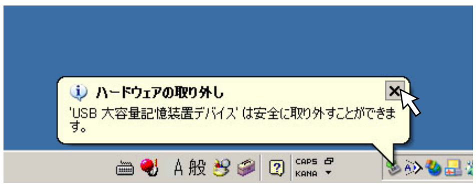
4 **USBケーブルを取り外す場合は、デスクトップ画面のタスクバー（右下）にある（切断アイコン）をクリックします。**

ドライブの選択表示がでますので［USB大容量記憶装置デバイス-ドライブ］を選択します。
・パソコンに複数のドライブが表示される場合は、“マイコンピュータ”を開いてiP Viewerの リムーバブルディスクのドライブ番号（“F”などのアルファベット）を調べてください。



5 **“USB大容量記憶装置デバイスは安全に取り外すことができます。”の表示が出たら安全に取り外すことがでます。**

表示は［X］をクリックすると閉じます。
※Windows 2000の場合は［OK］をクリックします。
ご使用のOSによっては表示が異なります。



6 **この状態でプロジェクタの電源を切り、USBケーブルを取り外すことができます。**

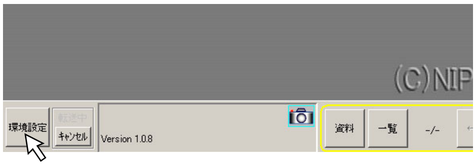
《2-3. iP Viewerの環境設定と取扱説明書を見るには》

- 環境設定はiP Viewerが作業用に使用するフォルダの一時保管場所の設定です。
  初期設定は“C:Temp”が選択されます（お使いのパソコンの環境によって異なる場合があります）。
  通常は初期設定のままで構いませんが、“C”ドライブの空き容量が500MB以下の場合やiP Viewer起動時のディスク空き容量不足メッセージを表示した場合などに変更が必要となります。
- 取扱説明書は環境設定画面から取扱説明書のPDFファイルを開きます。（この取扱説明書のことです。）

●iP Viewerの環境設定

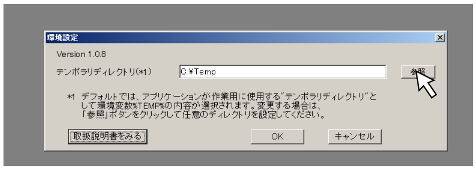
1 **iP Viewerを起動し、画面左下の［環境設定］ボタンをクリックする。**

環境設定画面を表示します。
・iP Viewerの起動は7ページ「2-1.ソフトウェアの起動」をご覧ください。



2 **［参照］をクリックして空き容量の大きなドライブに一時保管フォルダを設定する。**

［フォルダの参照］画面が開きます。
空き容量の大きなドライブのフォルダをクリックします。





> **ご注意**
> ネットワークドライブを指定すると資料の登録時や議事録保存時にエラーが発生することがありますので指定しないでください。

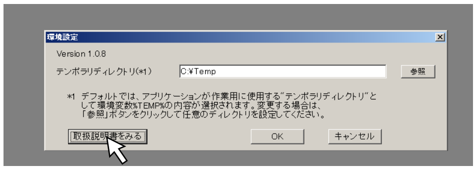
4 **［OK］を押すと再確認の画面が表示されます。よければ［OK］をクリックする。**

環境設定画面が閉じます。

次回起動時に設定内容は有効になります。

●取扱説明書を見る

1 **上記1、2の操作をして環境設定画面を開く。**



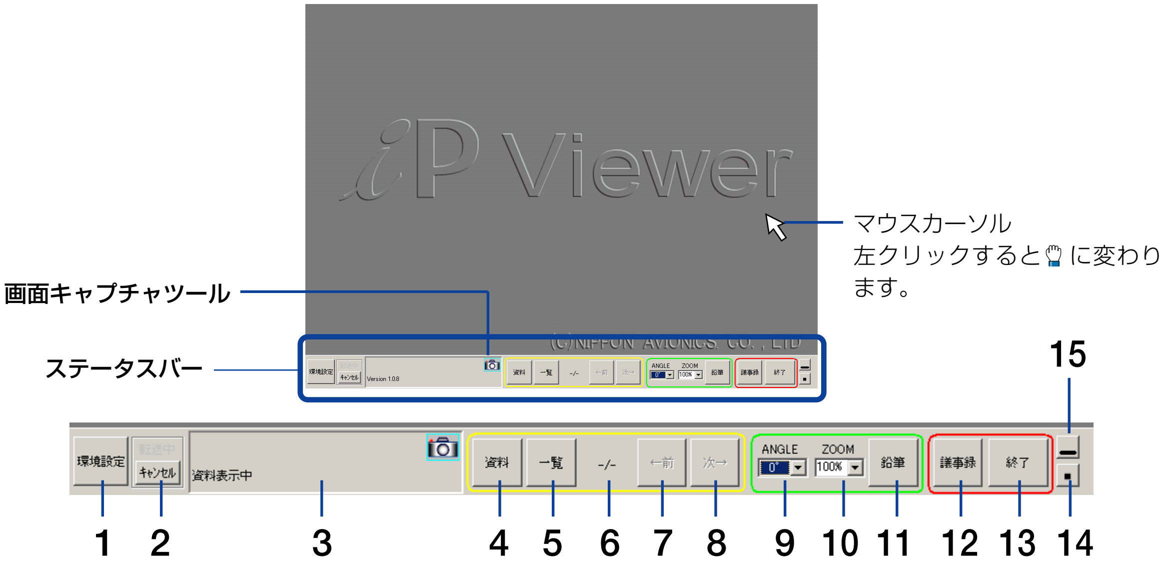
2 **［取扱説明書を見る］ボタンをクリックする。**

“iP Viewer 取扱説明書”のpdfファイルが開きます。

> **ご注意**
> iP Viewer 取扱説明書を見るためには、ご使用しているパソコンに Acrobat Reader（4.15以上）がインストールされていることが必要です。

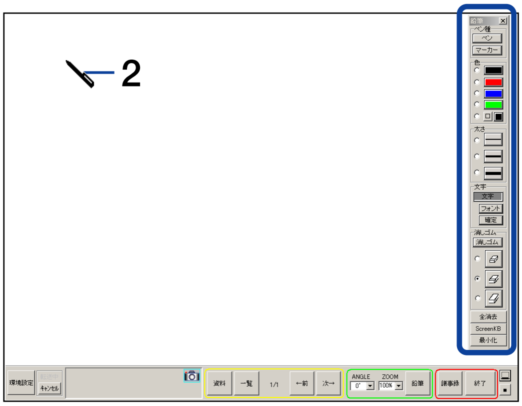
3. iP Viewer画面の名称と主な働き

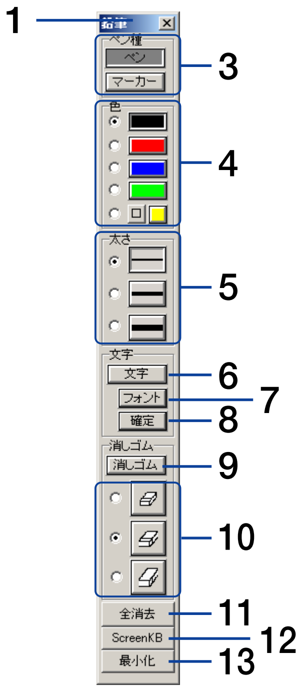
iP Viewer画面表示と各ボタンの概要を記載しています。詳細や操作方法は各説明項目をご覧ください。



1	**環境設定**	環境設定画面が表示されます。iP Viewerが作業用に使用するフォルダの一時保管場所の指定および取扱説明書の表示を選ぶことができます。
2	**転送中(キャンセル)**	プロジェクタのOHP機能で保存した資料をiP Viewerに転送している間ボタンが“転送中”（緑色）を表示します。[キャンセル] ボタンをクリックすると転送を中止します。
3	**情報**	動作状況を表示します。
4	**資料**	資料をiP Viewerに登録します。クリックすると取り込む資料の選択表示がでます。 フォルダ…会議で使用するファイルが含まれているフォルダを選択します。 ファイル…会議で使用するファイルを選択します。 ホワイトボード…白画面を表示しホワイトボードとして使用できます。鉛筆ツールを使って描画します。
5	**一覧**	上記（4）の資料や画面キャプチャ、OHP取込して登録した資料をサムネイル（縮小画像）で一覧表示します。
6	**ページ番号**	登録資料のページ番号／合計ページ数を表示します。
7	**←前**	一つ前の資料に戻ります。
8	**次→**	一つ先の資料に進みます。
9	ANGLE	[▼] をクリックして一覧から資料の回転角度を選択します。 90度単位で右に回転し角度（0、90、180、270度）を表示します。
10	ZOOM	[▼] をクリックして一覧から資料の拡大率を選択します。 拡大率は50、64、80、100、125、150、200、250%です。
11	**鉛筆**	鉛筆ツールを表示します。資料に手書きで描画したり、キーボードから文字入力ができます。 閉じるには再び [鉛筆] をクリックします。鉛筆ツールは次ページを参照ください。
12	**議事録**	投写した資料の履歴を一覧表示します。この履歴資料を議事録として保存します。
13	**終了**	iP Viewerソフトウェアを終了します。終了時には議事録保存画面を表示し、議事録や登録データの保存／非保存が選択できます。
14	**最小化**	ステータスバーが最小化され [Sts] アイコンに変わります。クリックすると元に戻ります。
15	**非表示**	iP Viewerが非表示状態になり、パソコンのタスクバーにボタン表示されます。ボタンをクリックすると最大表示状態に戻り、一番手前に表示されます。

●鉛筆ツール





1	**移動バー**	青いバーをドラッグで任意の位置に移動できます。
2	**ペンカーソル**	鉛筆ツールに切り替えるとマウスカーソルがペンカーソルに変わります。 マウスをクリックした状態で描きます。 文字入力はクリックした位置から文字が入力されます。
3	**ペン種**	鉛筆／マーカーを選びます。
4	**色**	色を選択します。 □ をクリックすると［色の設定］画面を表示します。
5	**太さ**	鉛筆またはマーカーの線の太さを選択します。
6	**文字**	文字をパソコンのキーボードから入力します。
7	**フォント**	フォント選択画面を表示します。
8	**確定**	文字入力を終了します。
9	**消しゴム**	消しゴム機能に変わります。
10	**消しゴムの大きさ**	消しゴムの大きさを（消去範囲を赤枠で表示）選択します。
11	**全消去**	描いた線や文字、入力した文字が全て消去されます。（登録資料は消去されません。）
12	ScreenKB	キーボードを接続していない環境でご使用の場合はパソコンのOSに付属のソフトキーボードが起動します。これを使用して入力します。
13	**最小化**	鉛筆ツールを最小化します。最小化画面の［元に戻す］ボタンをクリックすると元の大きさに戻ります。

●画面キャプチャツール



[取込]
キャプチャアイコンにマウスカーソルを合わせると、［取込］ボタンを表示します。画面キャプチャツールから外れると、［取込］の表示は閉じます。

ウインドウ切り替え
クリックするごとにデスクトップ画面に表示している“ウインドウ”を一番前に表示します。これによりキャプチャ画面の選択が素早くできます。

画面キャプチャツールの移動
キャプチャアイコンをドラッグしてお好みの場所に画面キャプチャツールを移動します。
iP Viewerを最小化や非動作に切り替えても画面キャプチャツールは表示します。

4. プレゼンテーション資料の作成について

● PowerPointで作成した資料はiP Viewer登録時に自動で画像ファイルに変換されます。

● 紙資料は、OHP機能を使って登録および画像データにすることができます。→15ページ参照

● プレゼンテーション中にパソコンで作成した資料を直接iP Viewerに登録することができます。→27ページ参照

● お持ちのアプリケーションソフトウェアで作成した資料は、画像ファイルに変換するか、画面キャプチャツールで取り込みます。

iP Viewerに登録できるファイル形式

JPEG（拡張子はjpg）、PNG（拡張子はpng）、WMF（拡張子はwmf）、PPT（拡張子はppt）

※PNG形式とWMF形式は、文字資料など情報量の少ない場合はファイルサイズが小さくなりますが、写真などの情報量が多い画像データの場合はファイルサイズが大きくなります。

PowerPointで作成のファイル

・ファイル保存時に“プレゼンテーション（PPT）”で保存してください。
iP viewerに登録すると自動で画像に変換されてページ順に登録します。
PPT（PowerPointファイル）は、PowerPoint（97, 98, 2000, XP, 2003 のいずれかのバージョン）およびMicrosoft officeツールがパソコンにインストールされていないと登録できません。
・ファイルの種類でJPEG、PNGで保存した場合はそのまま登録されます（画像データのため画像変換はしません）。
・“スライドショー（PPS）ファイルは自動再生や自動ページ切り替えなど機能しません。
・PowerPointアニメーションや効果音などは動作しません。

PowerPoint以外で作成のファイル

・PowerPoint以外で投写する資料はJPEG、PNG、WMFフォーマット形式の画像に変換して、1つのフォルダに入れてください。フォルダ選択でフォルダ中のファイルを昇順で一括登録ができます。
・プレゼンテーションの順に登録したい場合は昇順のファイル名にしてください。
iP viewerは0→9→A→Z→五十音　順に登録されます。

紙資料の画像ファイル

インテリジェントプロジェクタのOHP機能を使って画像ファイルにすることができます。プロジェクタでは一度に取り込めるファイル数は32枚です。

あらかじめ資料として作成するには…

1.「5-2. プロジェクタのOHP資料データを iP Viewerに登録する」（→15ページ参照）の操作をして会議に必要な紙資料をiP viewerに登録します。
2.「6.プレゼンテーションの終了」（→20ページ参照）で議事録保存をします。議事録保存すると1つのフォルダに画像データとして保存されます。
保存された画像ファイルは再びiP viewerで使用することができます。

5. プレゼンテーションの開始

作成した会議資料をiP Viewerに読み込んで登録すると資料が投写されます。登録済み資料を一覧表示で見たり資料の追加登録もできます。
登録した資料やホワイトボードに手書きで線や文字を書き加えることもできます。→24、26ページ参照

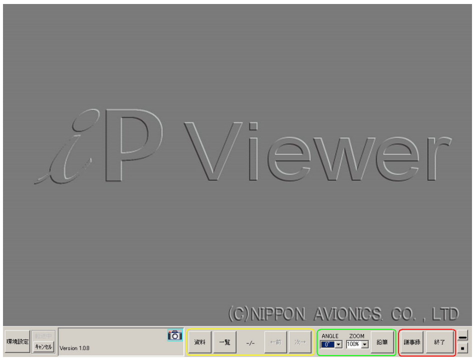
登録できるファイル形式
JPEG（拡張子はjpg）、PNG（拡張子はpng）、WMF（拡張子はwmf）、PPT（拡張子はppt）

ご注意　PPT（PowerPointファイル）は、PowerPoint（97, 98 2000 XP 2003 のいずれかのバージョン）およびMicrosoft officeツールがパソコンにインストールされていないと登録できません。

登録画像ファイル数
999ファイルまで登録できます。
999ファイル以上登録しますと動作不安定になったりメモリ不足エラーになることがあります。

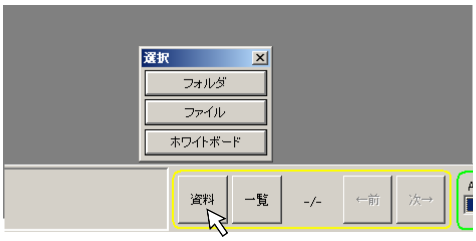
ご注意　**使用中に警告表示が出たときはディスクの容量不足が考えられます。**→8ページ参照

準備
1. プロジェクタとパソコンをRGBケーブルで接続します。
2. プロジェクタの電源を入れ、パソコンを起動します。
3. プロジェクタとパソコンをUSBケーブルで接続します。
   iP Viewerが自動で立ち上がります。起動しない場合は7ページをご覧ください。

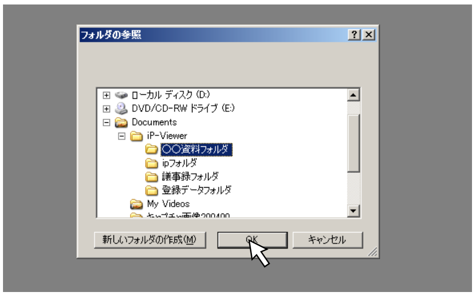


《5-1. 資料の登録と投写》

1　**ステータスバーの［資料］ボタンをクリックします。**
選択画面を表示します。

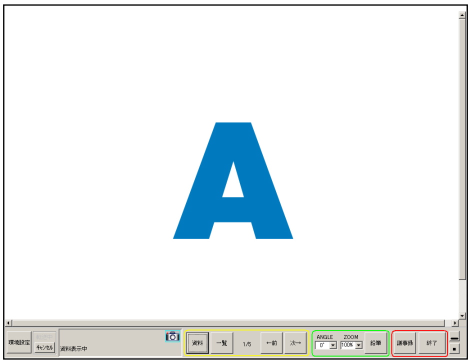


2-1　**フォルダ指定の場合：**
資料が入っている［フォルダ］をクリックします。
フォルダの参照画面を表示します。
目的のフォルダを選択し［OK］ボタンをクリックします。



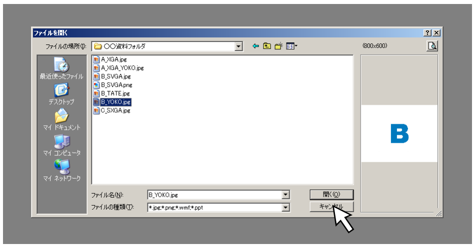
・フォルダ内の画像ファイルまたはPowerPointファイルが取り込まれ、始めの画像を投写します。
・PowerPointファイルはJPEGに変換されて取り込みます。変換中は変換状況が表示されます。



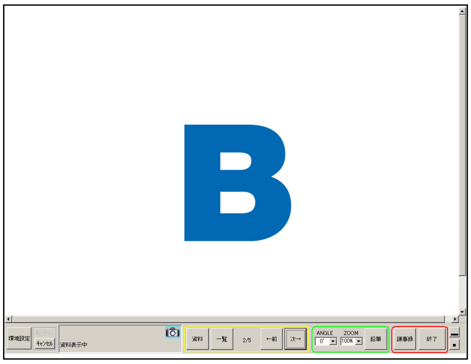


2-2 ファイル指定の場合：

［ファイル］をクリックします。
ファイルを開く画面を表示します。
目的の画像またはPowerPointファイルを選択し［開く(O)］ボタンをクリックします。画像を投写します。
・PowerPointファイルはJPEGに変換されて取り込みます。変換中は変換状況が表示されます。



3 必要に応じて1・2の操作を繰り返して登録します。



《5-2. プロジェクタのOHP資料をiP Viewerに登録する》

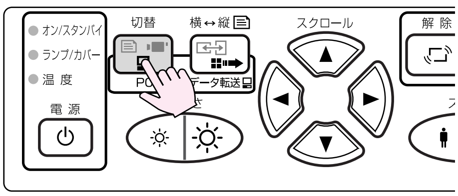
プロジェクタに搭載の書画カメラを利用して紙資料をiP Viewerに登録します。
スキャナ機能としてご使用になれます。

ご注意

データ転送中はUSBケーブルを抜いたり、プロジェクタの電源を切らないでください。プロジェクタ内蔵メモリが破損し、故障の原因となることがあります。
万一動作が異常になった場合は、USBケーブルを抜いてからプロジェクタの電源を入れ直す、パソコンを立上げ直す操作を行ってみてください。

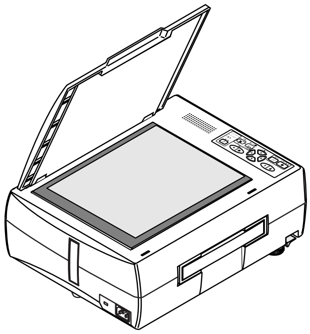
1 プロジェクタの［切替］ボタンを押して“OHP”を選択する。

OHPに切り替えるとiP Viewerからのプレゼンテーションの画像は消え、OHPの投写画像に変わります。



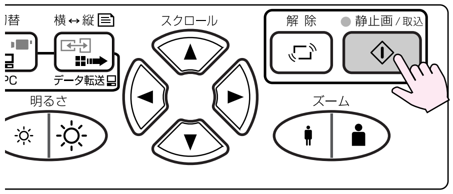
2 資料をのせる。

投写画像を見ながら、資料を移動して取り込み位置を調整してください。



3 プロジェクタの［静止画／取込み］ボタンを押す。

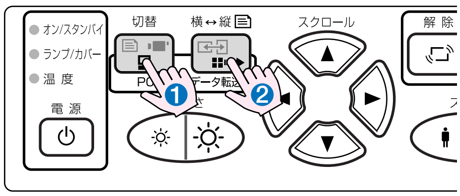
プロジェクタに保存されます。
取り込む資料が複数枚あるときは2、3を繰り返します。



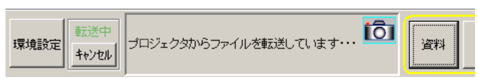
お知らせ
- 一度に取り込める枚数は32枚です。32枚取り込みましたらiP Viewerに転送してください。
  転送すると再度プロジェクタで資料を取り込めるようになります。
- 取り込んだ画像データ量がプロジェクタのメモリ容量の上限を超えると、その後の取り込み操作は無効となりますのでご注意ください。
  (iP投写映像の右上のアイコンが、32枚目保存時から赤に変わります)

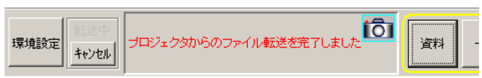
4 プロジェクタの［切替］ボタンを押してをPCに切り替えて、［データ転送］ボタンを押す。

iP Viewerに転送が始まり、資料の登録を開始します。
転送中、iP Viewerは操作できません。

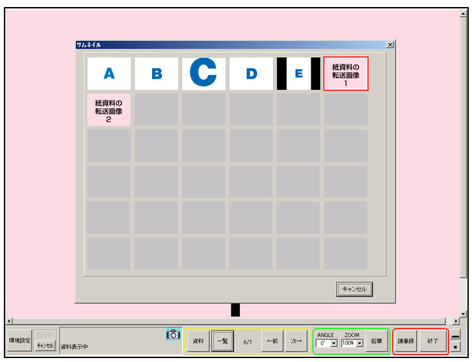


ご注意 転送中はプロジェクタ本体側を操作しないでください。内蔵メモリが破損し故障の原因となることがあります。





- 転送中はiP Viewerのステータスバーの“転送中”が緑色表示します。
- 転送が完了すると“転送中”の表示が消えます（薄いグレイ）。
- ［キャンセル］ボタンをクリックすると転送を中止します。
- iP Viewerが起動していない場合は、投写画面に転送中のメッセージが表示されますが、実際には転送されません。転送は必ずiP Viewerを起動してください。
- 転送後は、プロジェクタの履歴メモリは自動で消去されます。



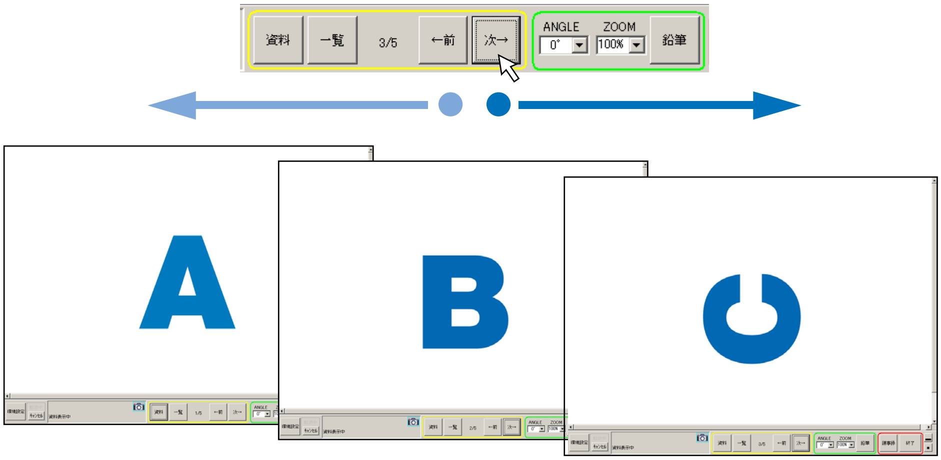
お知らせ
転送されたOHP資料は現在までに登録された資料の最後に追加されます。複数枚のOHP資料は順次登録します。
プロジェクタから取り込んだ資料は、資料の「一覧」に追加されると同時に、表示済みのため「議事録」としても挿入されます。

《5-3. 投写資料を次に進める／前に戻す》

ページの切り替え操作です。

ステータスバーの［→次］ボタンをクリックすると次の資料に切り替わります。最後の資料の次は始めの資料を表示します。
［←前］ボタンをクリックすると前の資料表示に戻ります。
始めの資料の前は最後の資料を表示します。

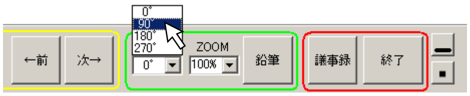
お知らせ　下記のキーボード操作でも行えます。
次：「→」キー、「↓」キー、スペースキー
前：「←」キー、「↑」キー、「Back Space」キー

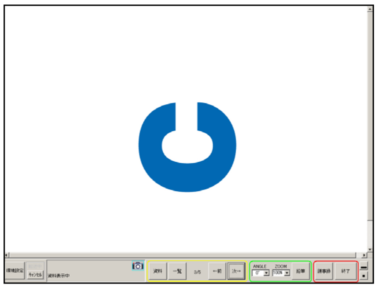


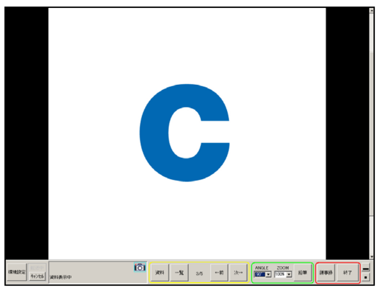
《5-4. 資料を回転する》

横の資料を縦向きに投写する場合に使います。

ANGLEの［▼］をクリックして選択一覧を出し、目的の角度をクリックします。資料は右回転します。





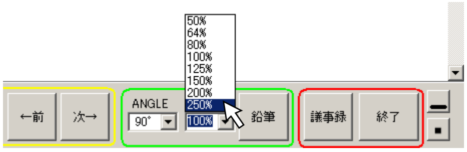


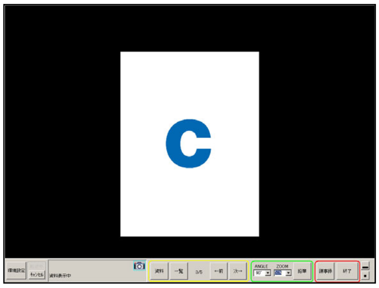
・0度、90度、180度、270度から回転角度を選択します。
・iP Viewer表示範囲からはみ出た資料はスクロールバーが表示されますので、スクロールバーを移動して表示させます。
・iP Viewer起動中は設定内容を記憶しています。

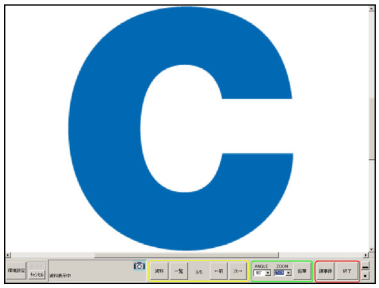
《5-5. 資料を拡大／縮小する》

プロジェクタの表示画像解像度より大きな画像や小さな画像の投写イメージを調整できます。

ZOOMの［▼］をクリックして選択一覧を出し、目的の拡大率をクリックします。







・50%、64%、80%、100%、125%、150%、200%、250%から拡大率を選択します。

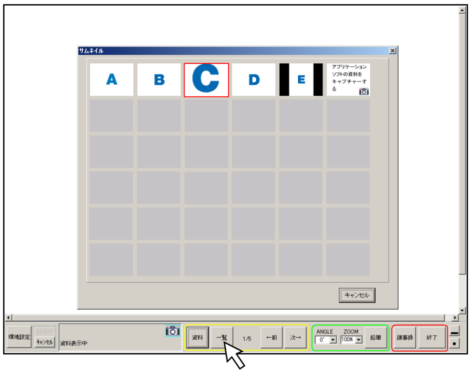
・拡大時の隠れた部分はスクロールバーまたは資料をドラッグして移動できます。

・iP Viewer起動中は設定内容を記憶しています。

お知らせ　小さな画像を極端に拡大するとデジタル拡大をするためギザギザ（ジャギー）が目立った画像になります。

《5-6. 登録資料の一覧表示と選択投写》

ステータスバーの［一覧］ボタンをクリックすると一覧画面（サムネイル）を表示します。



赤枠の画像が現在投写中の資料です。次に表示させたい画像をクリックすると一覧画面が閉じ選択した資料が投写されます。

・［キャンセル］をクリックすると一覧画面が閉じます。

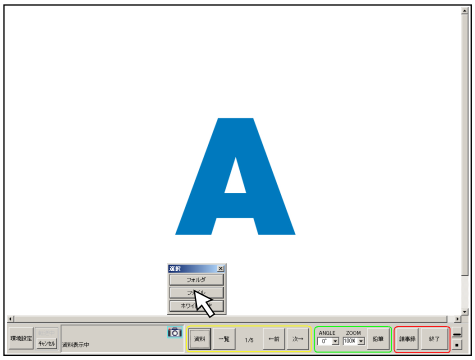
・36枚を超えるとスクロールバーを表示します。

・キャプチャした資料は他の資料と区別するためカメラアイコンが付きます。

《5-7. 資料を追加する》

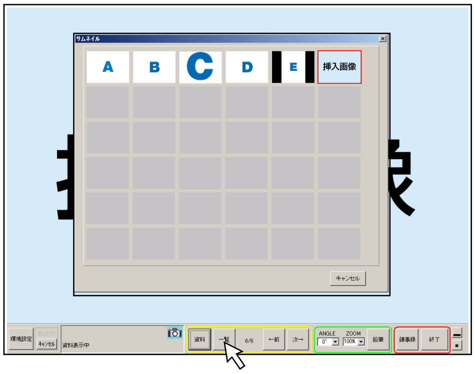
投写中に新しい資料を追加することができます。
追加した資料は今まで登録した資料の最後に追加登録されます。

1 **ステータスバーの［資料］ボタンをクリックすると選択画面を表示します。選択画面から目的のフォルダやファイルを指定して追加します。**



指定のしかたは、→14ページ参照
プロジェクタのOHP機能を使って紙資料を登録する場合は、→15ページ参照
アプリケーションソフトを立上げて目的の資料を登録する場合は、→27ページ参照

現在まで登録した資料の最後に追加されます。
一覧表示でご確認ください。



お知らせ　フォルダを選択した場合フォルダ内の画像ファイルまたはPowerPointファイル（JPEGに自動変換された画像）が順次追加されます。

6.プレゼンテーションの終了

会議が終了したときの終了操作です。議事録を保存して終了することができます。また、議事録をPDFファイルとして同時に保存することもできます。

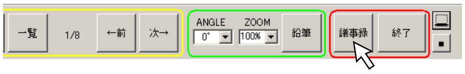
ご注意

iP Viewerソフトウェアを終了後、USBケーブルを抜かないでください。
パソコンからUSBケーブルを抜くにはUSBリムーバブルデバイスを安全に取り外すための切断操作があります。

《6-1.議事録の資料を一覧で確認する》

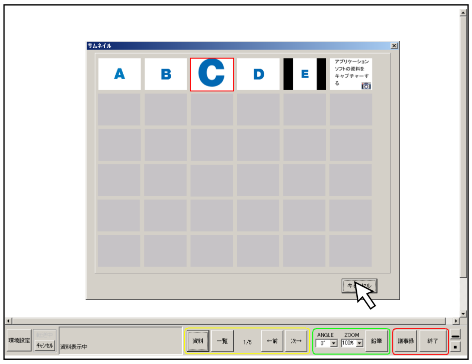
一度でも投写した資料は議事録に残ります。

1 ［議事録］ボタンをクリックする。



プロジェクタで投写した一覧資料を表示します。
表示している資料が議事録保存されます。

・目的の議事録資料をクリックすると投写されます。
・一覧表示中は［終了］ボタンや他のボタンは動作しません。
・議事録画面表示中は画面キャプチャアイコンは表示されません。
・画面キャプチャした議事録資料にはカメラアイコンが付きます。



2 ［キャンセル］ボタンをクリックする。

一覧表示中は［終了］ボタンや他のボタンは動作しません。
［キャンセル］ボタンをクリックして一覧表示を閉じてください。

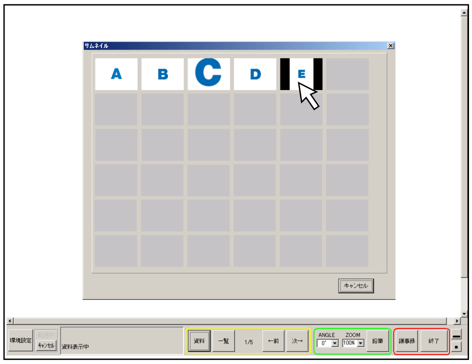
《6-2.不要な資料の削除》

議事録に残したくない資料を削除します。

ご注意

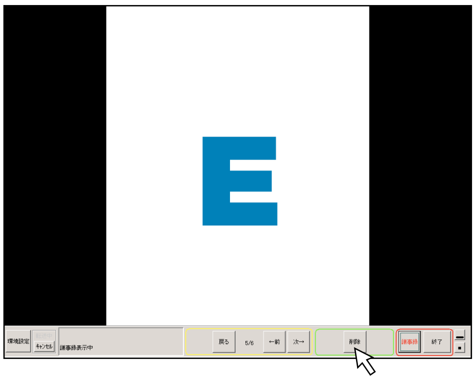
議事録から資料を“削除”すると、それまでに資料に行った編集情報（回転、ズーム、手書き）も全てクリアされます。これらの編集情報を残しておきたい場合は、あらかじめ“画面キャプチャツール”を使用して、編集後の画面のスナップショットを資料に追加しておいてください。

上記1の操作をして議事録画面を表示させてください。



1 不要な資料をクリックする。

確認のため選択された資料を表示します。



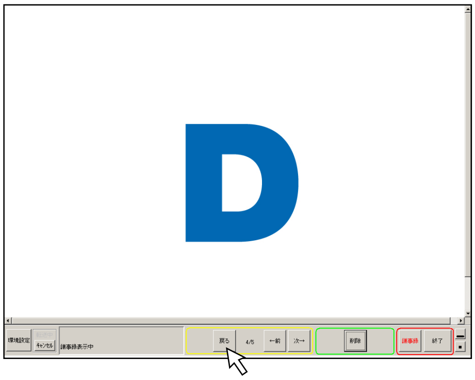
2 ［削除］ボタンをクリックする。

クリックすると削除されます。
続けて削除するときは、再び［議事録］ボタンをクリックして手順1、2の操作を行います。

3 ［戻る］ボタンをクリックする。

通常表示（登録資料）に戻ります。

・議事録一覧を表示させている場合は、［キャンセル］ボタンをクリックして一覧表示を閉じてください。

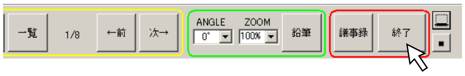


《6-3.議事録を保存して終了》

一度でも投写した資料は議事録に残ります。会議で投写した資料が保存されます。

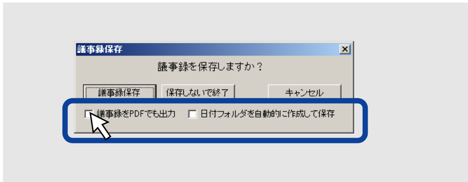
1 ステータスバーの［終了］ボタンをクリックする。

「議事録保存」画面を表示します。



2 議事録保存の条件を選択する。

PDFファイルとしても保存したい場合は、“議事録をPDFでも出力”にチェックを入れます。



ご注意

- PDFファイルとしても保存する場合、VS-Viewソフトウェアをパソコンにインストールしていないと保存できません。インストールのしかたは、→6ページ参照
- 議事録をPDF形式で保存したい場合は、拡大・縮小などの情報は残らず、オリジナル画像の全体がPDFの1ページに記録されます。拡大・縮小した結果をそのままPDFに記録したい場合は、“画面キャプチャツール”を使用してあらかじめその状態の画面のスナップショットを議事録として追加しておいてください。

自動でフォルダを作成する場合は、“日付フォルダを自動的に作成して保存”にチェックを入れます。年月日時分の名前のフォルダが作成されます。

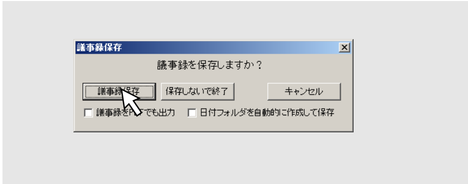
自分でフォルダを作成する場合は、チェックを入れないで次の手順にに進んでください。

お知らせ

- 自動フォルダ作成のフォルダ名は会議を開始した日時で作成されます。（例：開始日時が「2005年1月20日10時10分」ならば「200501201010」がフォルダ名となります。）

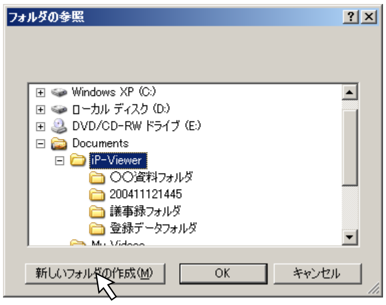
3 ［議事録保存］ボタンをクリックする。

フォルダの参照画面を表示します。
議事録を保存するフォルダをクリックしてください。



自分でフォルダを作成する場合

1) 議事録を保存するフォルダをクリックしてください。



2) ［新しいフォルダの作成(M)］をクリックします。新しいフォルダが作成されます。



3) フォルダ名を入力します。



4 ［Ok］をクリックする。

議事録資料を保存してソフトウェアが終了します。

※ パソコンからUSBケーブルを取り外す場合はUSBデバイスの切断操作を行ってください。

9ページ「2-2.ソフトウェアの終了とUSBデバイスとの切断」をご覧ください。

お知らせ

- 議事録一覧で表示している画像は連番（0001.jpg）を付けて保存されます。
- 議事録保存したJPEGファイルにはiP Viewerで拡大／縮小および回転させて表示したときの表示状態の情報が記録されています。
  議事録のJPEGファイルをiP Viewerで再度読み込んで表示する時にその表示状態（拡大／縮小、回転）が反映されます。
  しかしiP Viewer以外の画像を表示するソフトウェアでそのJPEG画像を開いた場合には拡大／縮小、回転は反映されませんのでご注意ください。
  また、別のアプリケーションで議事録のJPEGファイルを開き、上書き保存した場合には拡大／縮小および回転の表示状態の情報は失われますのでご注意ください。
- PDFファイルとしても保存した場合はこのフォルダ内に保存されます。議事録のデータ量が多い場合には保存に時間がかかります。
  また、メモリ容量が十分でない場合に保存に失敗する場合があります。この場合でもJPEGファイルは保存されていますので、保存したJPEGファイルと異なるフォルダに分割するなどして、再度JPEGファイルをiP Viewerに読み込んでPDFファイルを作成し直してください。
- 再度会議で議事録用の資料を使用する場合は、登録して投写することができます。

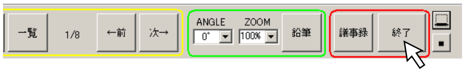
《6-4.議事録を保存しないで終了》

議事録資料を保存しないでiP Viewerが終了します。

1 **ステータスバーの［終了］ボタンをクリックします。**

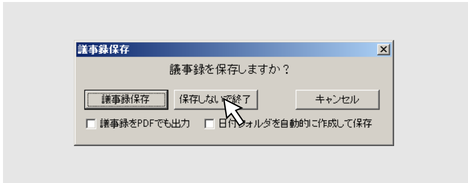
議事録保存画面を表示します。

・一覧画面を表示しているときは閉じないと［終了］ボタンは働きません。［キャンセル］ボタンをクリックして閉じてください。



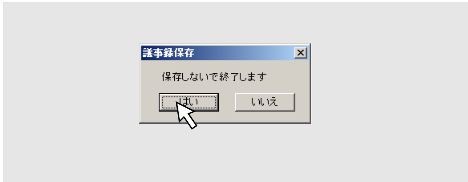
2 **［保存しないで終了］ボタンをクリックします。**

確認画面を表示します。



3 **［はい］ボタンをクリックします。**

iP Viewerが終了します。



※ **パソコンからUSBケーブルを取り外す場合はUSBデバイスの切断操作を行ってください。**

9ページ「2-2.ソフトウェアの終了とUSBデバイスとの切断」をご覧ください。

7. 便利な機能

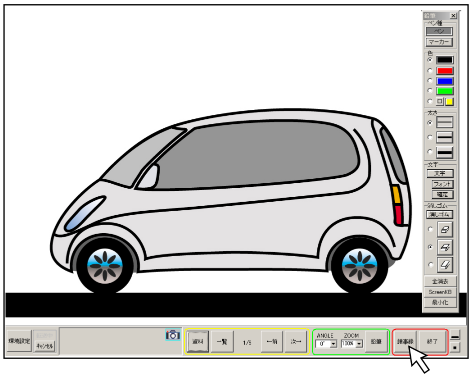
《7-1. 投写資料に線や文字を書き加える》

投写中の資料に線書き加えたり、パソコンのキーボードから直接文字入力して表示させる機能です。
パソコンに市販品のペンタブレットや液晶タブレットを接続するとよりリアルな書き込みが行えます。

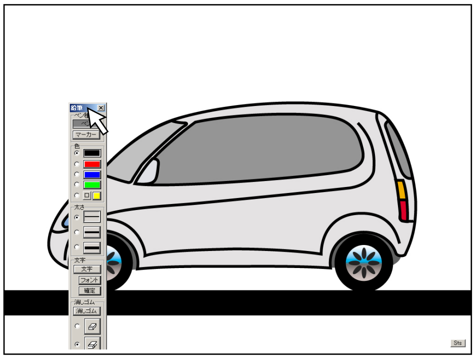
ご注意
タブレットPCなどをご使用の場合、iP Viewer起動後に、デスクトップ画面などを回転させると鉛筆ツールでの正常な描画ができなくなります。

1 ステータスバーの［鉛筆］ボタンをクリックします。

鉛筆ツールを表示します。
・鉛筆ツール各ボタンの概要は11ページ「iP Viewer画面の名称と主な働き」の「鉛筆ツール」をご覧ください。



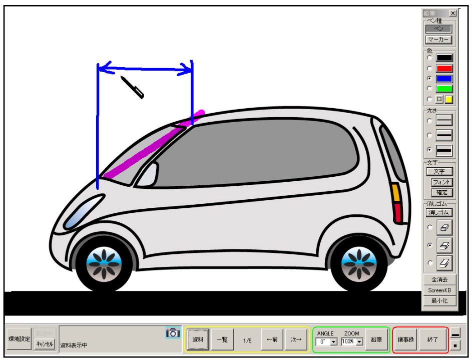
・［最小化］ボタンをクリックするとステータスバーが最小化され、全画面が表示されます。右下の Sts ボタンをクリックするとステータスバーが元に戻ります。
・鉛筆ツール最上部をドラッグすることにより、鉛筆ツールを移動できます。



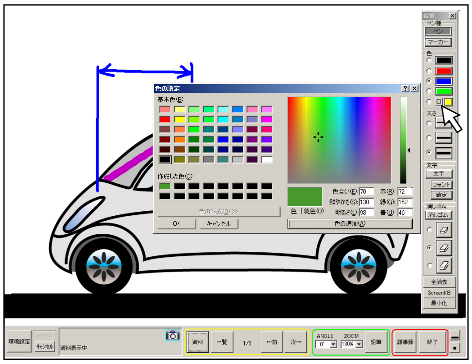
2 画像を描く。

1）ペン種を選択し、色を選択します。
マウスカーソルアイコンがペンアイコンに変わります。
［マーカー］は半透明の線で下絵が透けて写ります。

2) 線や文字を描きます。



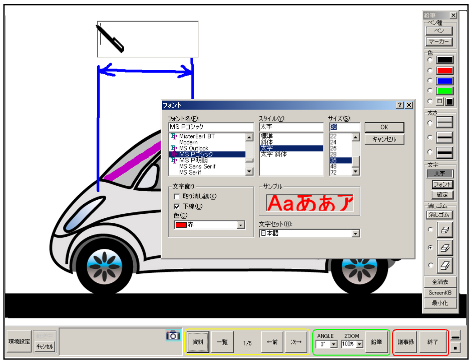
自分で色を作成する場合：鉛筆ツールの□ボタンをクリックすると色の設定画面が開きます。
目的の色を選択し［OK］ボタンをクリックします。
・さらに微妙な色彩を作成する場合：［色の作成(D)］をクリックし、色分布表示の中から目的の色をクリックします。
右横のバーを変えることにより明るさの選択ができます。
・よければ［色の追加(A)］をクリックします。作成した色欄に登録されます。使用時はこの色をクリックします。



3 文字をキーボードから入力する。

1）［文字］ボタンをクリックします。

マウスカーソルがペンアイコンに変わります。

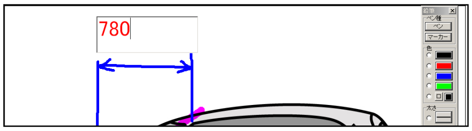


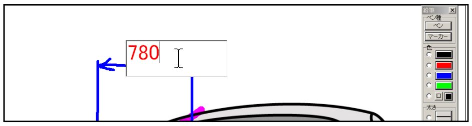
2）入力開始位置をクリックする

入力ボックスに変わり、文字入力カーソルが点滅します。
・フォントを選択する場合は、［フォント］ボタンをクリックしてください。
フォント画面を表示します。フォント名・スタイル・文字サイズなどが選択できます。
選択後［OK］ボタンをクリックして決定します。

3）キーボードから文字を入力します。

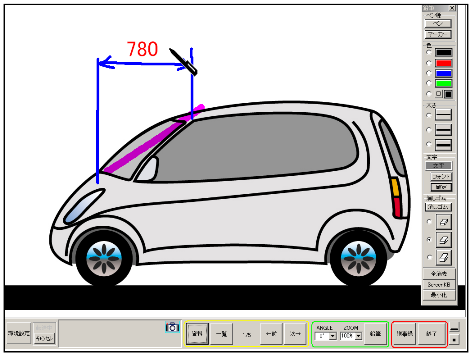
キーボードのEnterキーを押すと改行します。
（Tabキーは働きません）
・文字入力ボックスはドラッグすると移動することができます。





4）入力文字および表示位置がよければ［確定］ボタンをクリックします。

確定後の表示位置や文字修正はできません。［消しゴム］ツールで消去してから入力しなおしてください。
これで文字の入力が終わりました。



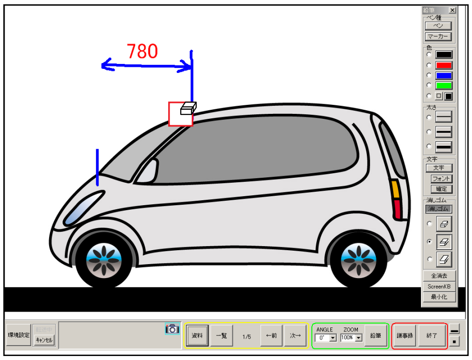
お知らせ
・“ZOOM”100%時の入力文字が実表示の文字で一番きれいに表示できます。
・［確定］はキーボードのAltキー＋Enterキーでもできます。

4 鉛筆ツールで描いた文字や線を消す。

1）消しゴムの大きさを選択（クリック）し、［消しゴム］ボタンをクリックします。

2）不要な箇所を消去する

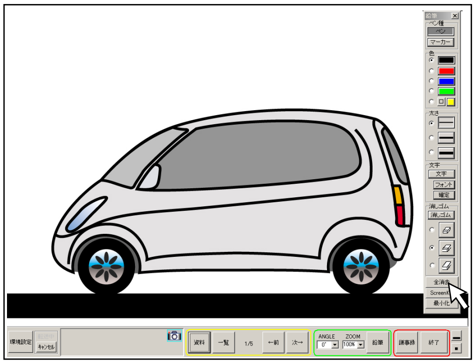
マウスカーソルが消しゴムアイコンに変わります。
消しゴムアイコンの赤枠が消去する範囲です。
マウスをクリックした状態で移動すると消えます。



3) 画面全部の描画を消すには［全消去］ボタンをクリックします。
確認画面を表示しますので［はい］をクリックします。
資料として登録した画像は消去されません。

ご注意
ワコム製液晶タブレットをご使用の場合はペンの反対部分（消しゴム機能）は動作しますが、ペン先では消すことはできません。

5 **鉛筆ツールを非表示にする。**
ステータスバーの［鉛筆］ボタンをクリックするか、鉛筆ツール右上の［X］をクリックします。



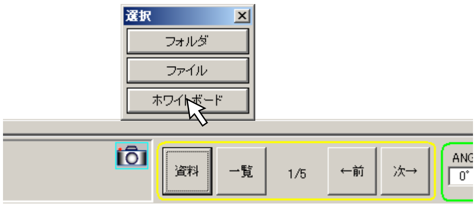
お知らせ いつでも書き加えた線や文字は［消しゴム］や［全消去］で消去することができます。
ただし、議事録を保存した画像は合成画像が保存されますので、修正することはできません。

《7-2. 投写画面をホワイトボード（白板）として使う》

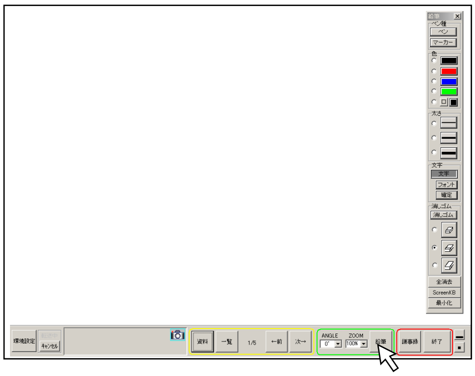
白画面を投写し、手書で描画をしたり入力を入力してホワイトボードとして使うことができます。
描いた画像は議事録に保存されます。

1 **ステータスバーの［資料］をクリックする。**
選択画面を表示します。

2 **［ホワイトボード］クリックする。**
白画面が表示されます。



3 **［鉛筆］をクリックして鉛筆ツールを表示させる。**
以降24ページの「7-1. 投写資料に線や文字を書き加える」2～5と同じ操作で、描画や文字入力を行います。



《7-3.画面をキャプチャして登録する》

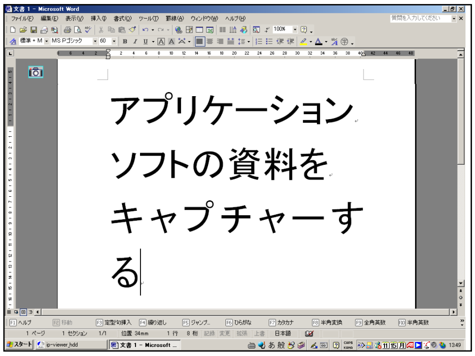
パソコンで起動しているアプリケーションの画面をキャプチャして登録することができます。

1　[画面キャプチャツール] をクリックして登録したい画面を一番前に出す。

[画面キャプチャツール] をクリックするごとに後ろの“ウインドウ”が一番前に出ます。

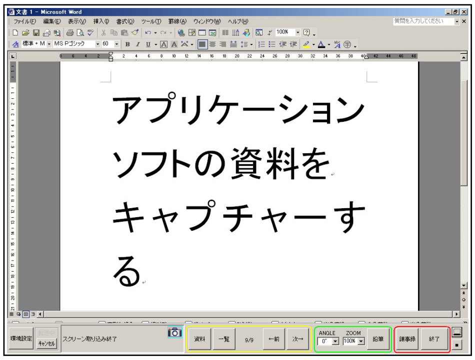
2　資料データを開き、ウインドウを画面一杯に広げる。

資料にするページを開き、キャプチャする範囲を調整します。デスクトップ画面全体がキャプチャされます。



3　[取込] ボタンをクリックする。

画面キャプチャツール にマウスカーソルを合わせると [取込] ボタン を表示します。
[取込] ボタン をクリックするとiP Viewerに登録されます。



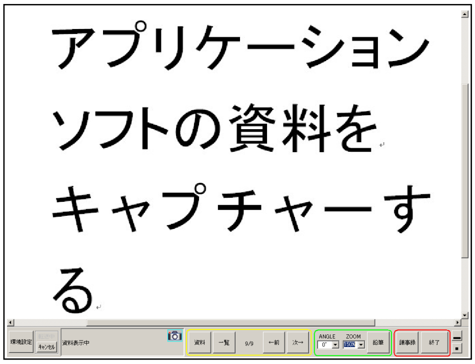
4　[画面キャプチャツール] をクリックしiP Viewer画面を一番前に出す。

キャプチャ画像を表示しています。

5　画像を調整する。

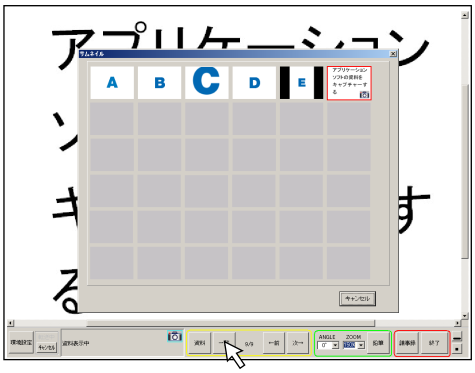
[ZOOM] ボタンで拡大し、スクロールバーで表示位置を調整します。

・ステータスバーが調整にじゃまな場合は ■（最小化）ボタンをクリックすると最小化されます（スクロールバーは表示します）。元に戻すには画面右下の Sts ボタンをクリックしてください。



6　一覧表示を確認する。

キャプチャした資料は他の資料と区別するためカメラアイコンが付きます。



これで資料のキャプチャーと調整が終わりました。

線を加えたり、文字を書き加えるには、→24ページ参照

■ 保証と修理サービス

保証と修理サービスにつきましては、iPシリーズ本体の取扱説明書をご覧ください。

iP Viewerソフトウェアの情報について

iP Viewer ソフトウェアについてバージョンアップ情報がある場合は弊社ホームページのiPシリーズ製品情報に掲載いたしますので、こちらをご覧ください。

日本アビオニクス株式会社

お問い合せ先

電子装置事業部	〒253 -0103神奈川県高座郡寒川町小谷2-1-1
コールセンター	フリーダイヤルTEL 0120-175411
ホームページ	http : //www.avio.co.jp
メール	mail : suport_ip@avio.co.jp
電子装置営業本部 MP営業部	〒105 -0003 東京都港区西新橋3-20-1 TEL (03)5401-7377
大阪支店	〒532-0011 大阪市淀川区西中島1-11-16 住友商事淀川ビル TEL (06)6304-7361（代表）
名古屋支店	〒460-0003 名古屋市中区錦3-7-9 太陽生命名古屋第2ビル TEL (052)951-2926（代表）
福岡支店	〒812 -0012 福岡市博多区博多駅中央街8-36 博多ビル TEL (092)411-7371（代表）